

# Glocal Tenri



10

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.14 No.10 October 2013

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

## CONTENTS

- 巻頭言  
感動をよぶ講演  
／深谷忠一 ..... 1
- 天理教伝道史の諸相 (22)  
三重、岐阜、和歌山の天理教  
／早田一郎 ..... 2
- 「おふでさき」の有機的展開 (18)  
第三号：第七十三首～第八十首  
／深谷耕治 ..... 3
- フランスで育つ日本人の子供たちへの  
日本語教育 (10)  
天理日仏文化協会こども日本語講座の  
取り組み<sup>⑩</sup>  
／田中久代 ..... 4
- 新宗教のブラジル伝道 (6)  
キリスト教の変容<sup>③</sup>  
／山田政信 ..... 5
- 「いのち」をつなぐ—生死の現象 (22)  
死者と生者の間に<sup>③</sup>  
／堀内みどり ..... 6
- 「襲のあわいに深く入り込んでいて…」  
をめぐって (11)  
襲のあわい—その火口<sup>⑩</sup>  
／松田健三郎 ..... 7
- ノーマライゼーションへの道程 (20)  
福祉のまちづくり<sup>⑦</sup>  
／八木三郎 ..... 8
- ヴァチカン便り (4)  
法王交代前後の動向  
／山口英雄 ..... 9
- 平成 25 年度公開教学講座「信仰に生  
きる」：『逸話篇』に学ぶ (2)  
第 4 講：28「道は下から」  
／金子昭 ..... 10
- English Summary ..... 11
- おやさと研究所ニュース ..... 12  
出張報告／日本宗教学会第 72 回学術大会

## 巻頭言

### 感動をよぶ講演

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

次期ノーベル平和賞の有力候補といわれるパキスタン人の少女、マララ・ユスフザイさんが、去る 7 月 12 日に国連本部で、「平和と教育を受ける権利のために戦い続ける声なき女性や子供のために」との演説を行い、国連は彼女の 15 歳の誕生日 (16 歳と報道されているのは誤認) であるこの日を「マララ・デー」と命名しました。

タリバンの武装勢力 TTP に 09 年まで実効支配されていたパキスタン北西部のスイート溪谷に住んでいたマララさんは、11 歳のときからイギリス BBC のウルドゥー語のブログサイトに GUL MAKAI というペンネームで「パキスタン女子学生の日記」を投稿。TTP が女性への教育を認めず 200 以上の女子学校を破壊した様子などを発信しました。

そして、このあどけない少女が女性の教育の必要性や平和を訴える姿が、世界的に注目されるようになり、パキスタン政府は彼女に第 1 回国家平和賞を授与しました。また、ニューヨークタイムズ社が二つのビデオを作って特集をしたのですが、それがために彼女の正体が知られることになり、以後 TTP が公然とマララさんの殺害を宣言するようになったのです。

そして、昨年 10 月 9 日、下校のスクールバス内で彼女は TTP に銃撃され、友人二人も巻き添えになったのです。マララさんは至近距離から頭部や首を撃たれ、ペシャワールの病院に運ばれた後ラワルピンジの複合病院に空送られ、パキスタンでの最高の脳神経外科手術を受けて容態が安定した後、イギリス・バーミンガムのクイーンエリザベス女王病院に運ばれました。この病院は兵士たちが戦場で受けた損傷箇所を復元するのを専門としており、彼女の砕けた頭蓋骨の穴をチタンの板で覆い、耳には聴力を取り戻す器具を埋め込む手術をして、彼女は奇跡的に回復することができたのです。

2007 年に暗殺されたパキスタンのブット元首相が使っていたピンクのショールを頭に巻いたマララさんが、国連の幹部や世界から集まった約 500 人の若者の前でいった英語による全 17 分間の演説は、聴衆の拍手で途中

8 回も中断し、最後には拍手が数分間鳴り止まないという、全聴衆の魂をゆさぶるものでした。

\* マララ・デーは自分のための日ではなく、人権、教育、平和、平等を達成するために闘い、テロリストに命を奪われ傷つけられた全ての人のための日です。

\* テロリストの銃弾は、私の志は変えられませんでした。私の中での弱さ、恐怖、絶望を消滅させ、強さ、力、勇気をもたらしました。

\* 私は自分を撃ったタリバン兵士を憎んではいません。過激派の子供を含むすべての子供に教育の機会を与えてほしいと世界のリーダーたちに訴えるためにここに立っているのです。

\* インドでは、子供たちが児童労働の犠牲になっています。ナイジェリアでは多くの学校が破壊されています。アフガニスタンでは、幼い少女が家で働かされ、低年齢での結婚を強要されています。貧困、無学、不正、人種差別、そして基本的人権の剥奪—これらが問題なのです。

\* 無学、貧困、そしてテロリズムと闘いましょう。本を手に取り、ペンを握りましょう。それが私たちにとって最も強力な武器なのです。一人の子供、一人の教師、一冊の本、そして一本のペン、それで世界を変えられます。教育こそが唯一の解決策なのです。

マララさんが世界的な知名度を得るにしたがって、あれは西側のプロパガンダだ、などと言う者も出てきていますが、国連での彼女の演説の映像を実際に見れば、“自分に瀕死の重傷を負わせたタリバンの子供たちにも教育を与えたい”という 15 歳の少女の言葉が、嘘偽りのない真実のものだとわかります。匿名のサイトで正義の味方を取るのは全く違う、本物の生命がけの主張がどれほど感動をよぶものか。この歴史に残る演説を見逃した人、特に人前で話をすることを生業としていない人は、“マララさん国連スピーチ日本語字幕つき”をネットで検索して、ぜひ彼女の生の演説を聴いて頂きたいと思う次第です。